



268号
2021/11

日中文化交流市民サークル'わんりい'
町田市三輪緑山 2-18-19 寺西方
〒195-0055 ☎ : 044-986-4195
<http://wanli-san.com/>
Eメール:t_taizan@yahoo.co.jp



結婚記念写真撮影：大連の中山広場で結婚記念アルバムを撮影中のカップルに出会った。カメラマンは脚立の上で新婚さんに指示を出しながら撮影している。中山広場の周りは昔の大和ホテルをはじめ、古い欧風建物がいっぱい建っている。
(遼寧省瀋陽市 2016年3月 撮影 満柏)

‘わんりい’ 2021年11月号の目次は20ページにあります

遙か昔、北の方の大海に、「鯤」と呼ばれる大きな魚が住んでいました。

ある日、鯤は外の世界がどんな様子か見ようと、海面に顔を出しました。

一羽の小鳥が、海面に顔を出した鯤に向かって訊きました：「大きな魚さん、あなたは誰ですか？」

鯤は答えました：「私は鯤と言う名だが、お前さんは誰だい？」小鳥は答えます：「私はスズメです。空からやって来ました」それを聞くと、鯤は空がどこにあるのか、どんな様子なのか、とても知りたいと思い、それからは何時か空を飛びたいという夢を持つようになりました。

ある日、鯤は両方のヒレを何回かバタバタと動かしてみました。するとどうでしょう、本当に飛び上がることが出来たのです。それ以来、大きな魚が飛び上がって生まれた大きな鳥を、人々は「鵬」と呼ぶようになりました。

・ > ・ > ・ > ・ > ・ > ・

言葉の意味：「鵬」は万里を飛ぶことが出来る鳥、と言い伝えられている、前途が洋々としていることの例え

使い方：若いうちに多くの知識を学び、心に大きな志を抱けば、必ず「鵬」のように万里を飛ぶことが出来る、前途は洋々としている。

・ > ・ > ・ > ・ > ・ > ・

このお話は、戦国時代の思想家・荘子の考えをまとめた書物「荘子」内篇の「逍遙遊」に出てくるお話です。ここには、以前この欄でご紹介した「呆若木鸡」というお話が載っています。闘鶏場で、相手の鶏に心を動かさなくなるように訓練された鶏が、無敵の王者になるお話でした。

荘子は、戦国時代に生きた思想家で、万物は皆同じで、無為自然を最上の策としているのです。無為と言うことは一般に老子の思想、つまり道家の思想とみられ、荘子と老子は同じ学派、さらに言えば、荘子は老子の後継者とみなす説が言われているようですが、一部には異論もあります。

そもそも老子という人の詳細が分からないので、その関係は不明、と言うことのようにです。ただ一つ言えることは、老子は、人の世に関心を寄せ、それに伴う政治への想いがあるように見られるのに対して、荘子は人間と自然との関わりに思いをはせていて、人為的なものには関心が無いように見えるという違いがあるということです。

老子は、無策であることが世を治め、世を生きる処世の方策として上等だと考えているよ

うですが、荘子は世の中で生きるというより、自分の思うままに暮らすことを良しとしたようです。お話として伝えられているのは、楚の威王が、荘子の評判を聞き宰相に迎えようとしたのに対し、「宰相は禄も高く名誉なことだが、生贄に買われている牛と同じように見えます。普段は美味しいものを与えられ、錦で飾られているが、祭祀が始まると祭壇へと導かれます。その時になって、生贄として殺されるのは嫌だ、野のブタのように自由に暮らしたいと言っても遅いのです。私は、自分の思うままに自由に生きる方を選びます」と言ってその申し出を断りました。こんな考え方と行動が、三国時代魏の末期に現れた竹林の七賢など、世の中に批判的で、野に有って清談を重ねた人々に大きな影響を与えたようです。



挿絵：満柏画伯

李清照の〈詞〉〔如夢令〕

桜美林大学名誉教授 植田渥雄

〈詞〉はもともと楽曲を伴った芸能の一種で、妓女たちの遊芸に由来しています。したがって女性的な感性を重んじる点を特徴としていますが、作詞者の多くは男性でした。その中であって李清照(1084~1155)の作品は文字通り女性特有の感性が前面に出ています。今回取り上げる〔如夢令〕はその典型といえるでしょう。

rú mèng líng
如 夢 令

lǐ qīng zhào
李 清 照

zuó yè yǔ shū fēng zhòu

昨夜雨疏風驟

nóng shuì bù xiāo cán jiǔ

濃睡不消殘酒

shì wèn juǎn lián rén

試問卷帘人

què dào hǎi táng yī jiù

却道海棠依旧

zhī fǒu zhī fǒu

知否知否

yīng shì lǜ féi hóng shòu

應是綠肥紅瘦

* 如夢令 = 如夢令。詞牌(楽曲)の名称。作品の内容を表わすものではない。

* 雨疏風驟 = 大粒の雨を交えた強風。

* 濃睡 = ぐっすり眠る。

* 不消殘酒 = 酔いが残って消えない。二日酔い。

* 試問 = 訊いてみる。

* 卷帘人 = 簾すだれを巻き上げに来た人。ここでは召使い。

* 却 = 逆接を表わす副詞。ところが。却って。

* 道 = 言う。

* 海棠 = カイドウ。バラ科の落葉喬木。4月ごろ、白またはピンク色の花を咲かせる。美人を象徴する花として喜ばれるが、別れの悲しみを表わすこともある。

* 依旧 = これまでと同じ。昔のまま。

* 知否 = 知らざるや否や。知っているのか。

* 應是 = きっと～のはずだ。

* 綠肥紅瘦 = 緑の葉が増えて花が少なくなること。

この〈詞〉の内容を散文風に綴ると次のようになるかと思えます。なお、最後に付け足した部分は登場人物の心の中のつぶやきを勝手に想像したものです。

昨夜は大荒れの天気だった。酒を飲んでぐっすり眠ったはずなのに、まだ酔いが残っているのか今朝は頭が重い。昨日まで見事に咲いていた庭の海棠の花はどうなったのだろうか、昨夜の嵐で散ってしまったのだろうか、そんな心配をしている所へ召使いの女の子が簾を挙げに入ってきたので、ちよいと訊ねてみた。「海棠の花、どうなったかしら」と。ところが返ってきた答えは何と「昨日と変わりありませんよ」だって。そこで言ってやった。「あなた、気づかなかったの。赤い花が散って緑の葉だけになっているはずよ」と。

(あなたって、センスないわね。花が散るってことは、女にとって青春が消えていくってことなのよ)

(いやーね奥様。また酔ってらっしゃるの。ご存知なら訊かなければいいのに……)。

漫画『サザエさん』の一コマを思い起こさせる場面です。

[和訳]

夕べの嵐に、眠れども

酔い醒めやらず

庭の海棠いかにと問えば

相変わらずと汝なれは言う

知らざるか、知らざるか

雨風に花の散れるを



とじょう なんそう だい
 崔護の「都城の南荘に題す」

報告:花岡風子

今回のお題はさいご とじょう なんそう だい
 崔護の「都城の南荘に題す」で
 した。崔護は、白居易とほぼ同年代の中唐の詩人
 で、生卒年は不詳ですが、796年に進士に合格し
 た、れっきとしたお役人だったようです。この詩
 は、中国人なら小学生でも知っているほど有名
 ですが、作者の素性がはっきりしません。唐代の
 詩を五万首以上も集めた『全唐詩』に崔護の詩は
 六首だけ載っているそうですが、有名な詩はこ
 れ以外に見当たりません。「一首だけで後世に名
 を残した詩人としては、他に『楓橋夜泊』の張
 継、『黄鶴楼』の崔顥などがいますが、この詩の
 作者も一首だけで千年以上も名が残っている、
 まさに一発屋詩人の典型例ですね」と植田先生。

私はこの詩を見たとき、何だか知っている
 ような気がしたのですが、すぐテレサテンが歌
 っていたことを思い出しました。(歌のタイトル
 は『人面桃花』です)それほど、良く知られた漢
 詩なのですね。では、内容を見てみましょう。

とじょう なんそう だい
 都城の南荘に題す
 さいご
 崔護

こんいち うち
 去年の今日、此の門の中
 じんめん あいくれない えい
 人面桃花相紅に映ず
 いず ところ
 人面は知らず何れの処にか去る
 きゅう よ しゅんぷう
 桃花は旧に依りて春風に笑う

tí dū chéng nán zhuāng
 提都城南庄
 cuī hù
 崔护

qù nián jīn rì cǐ mén zhōng
 去年今日此門中
 rén miàn táo huā xiāng yìng hóng
 人面桃花相映紅
 rén miàn bù zhī hé chù qù
 人面不知何處去
 táo huā yī jiù xiào chūn fēng
 桃花依旧笑春風。

去年の今頃、この門の中では、
 美しい女性と桃の花がどちらも美
 しかった。

あの女性はどこに行ってしまった
 のだろう。

桃の花だけが去年と同じように春
 風の中で咲き誇っている。

※「笑」という字は、花が咲くという意味で、
 「咲」は笑の異体字だそうです。

さて、この詩は桃花と人面が重複して使われ
 ています。通常字数が決まっている近体詩では
 このような重複は避けるのが常識ですが、ここ
 では重複させることで、独特のリズム感を出し
 ています。耳で聞いてもノリがよく、平明で口ず
 さみやすいため、広く人口に膾炙したのではな
 いかと思われます。たった24文字から立ち上る
 この情景は、初恋の一コマや胸の中を吹き抜け
 る一抹の寂寥感を感じさせる抒情的な雰囲気
 に溢れていますね。

さて、この詩にまつわる漢文が、近年になって日本の高校の古典 B や NHK のテキストに取り入れられたりして、日本でも知られるようになってきているようです。

古典 B に取り上げられたのは、唐代に流行った不思議なお話を色々と集めた〈伝奇〉というジャンルの『本事詩』に収録されている「崔護『題都城南荘』詩」です。この書物は、詩が生まれた背景を紹介した不思議ストーリー集です。この詩の話の内容は恋愛の不思議を描いた物語で、中国版シンデレラストoryとでも言うべきものです。

ある時、美男の崔護が酔い覚ましの水を求めて偶然立ち寄った屋敷の門口で、美しい深窓の令嬢に出会い、二人はお互いに一目惚れの恋をする。二人は逢えない間に思いを募らせ、一年ばかり後に、崔護が再び屋敷に立ち寄ると、あいにく留守だったために、家の門にこの詩を書き付けて立ち去った。父親と外出していたお嬢さんは、帰宅してこの詩を読んでから、恋煩いで寝込んでしまった。数日して、崔護が訪れてみると、父親が泣きながら出てきて、訪ねてきたのが娘の想い人と知ると「娘は先ほど息を引き取った。娘を殺したのはお前だ」と言う。よく話を聞いてみると、娘は崔護が書き残した詩を読んだ後、食を断ち、日に日に衰弱して死んでしまったのだという。驚いた崔護はせめてお悔やみにと、彼女の亡骸を膝に乗せ哭いたところ、目が開き息を吹き返し、二人はめでたく結ばれた、というストーリーです。まるで白雪姫ですね。

「もちろん、この話はあとから作られたものだと思いますけどね。この時代、科挙の試験を受験

するためには、名士に推薦してもらわないといけなかったんですね。名士も無名の受験生から送られる大量の文章の全てに目を通すのは面倒くさい。そこで、〈温卷〉という自己アピールの風習が生まれたそうなんです。これに面白いエピソードを書くと、名士の目に留まりやすいというわけで、これがもとになって〈伝奇〉というジャンルが生まれたのです」

と植田先生。なんと！ そういう手続きも踏まないと科挙の試験を受けられなかったんですね。

それはそれとして、この詩ができた背景に「もし本当にこんな素敵なストーリーがあったら」と、想像するだけでもドラマチックですね！ そしてやっぱりみんなが想像する通り、このお話は京劇や地方劇のレパートリーになって有名になり、今なお誰もが知る中国版ラブストーリーになっているというわけです。

たとえこの詩が一生に只の“一発”でも、このラブストーリーが劇や歌にもなって、千年後の小学生にも口ずさまれていると知ったら、彼岸の崔護さんはどんなお気持ちでしょうね。



テレサ・テンの「人面桃花相映紅」(腾讯视频より)

『中原経済区規畫』を読む

文と写真＝村上直樹

今回は7月号に続いて『中原経済区規畫(2012～2020年)』(以下、単に『規畫』)を読み進めることにしたい。『規畫』の**第七章**は「建設現代化基礎設施」(近代化インフラ施設の建設)と題されており、鉄道、高速道路、国内河川水運、航空といった交通ネットワークの整備(第2節)、また、石炭、電力、天然ガス、新エネルギーの全国的な供給拠点の建設(第3節)、さらには情報ネットワーク設備の建設を加速する(第5節)という目標が掲げられている。

中でも注目されるのは、第4節「加強水資源保障」(水資源の保障を強化する)で「南水北調」(南の水を北に移す)プロジェクトの遂行について述べられている点である。元来中国では、基本的に南方は水が過剰で、北方は水が不足している。この問題を解消する目的で、幹渠(幹線水路)を建設して、南方の水を北方に移そうという国家レベルの巨大プロジェクトがこの「南水北調」である。

その構想は1952年に毛沢東が黄河を視察した際、提起された。東線(東ルート)、中線(中ルート)、西線(西ルート)の3つのルートがあり、東ルートは2002年12月に、中ルートは2003年12月にそれぞれ着工した。西ルートは現時点でまだ着工していない。幹線水路の総延長は4,350キロメートルに及ぶ。

この「南水北調」でとくに中原に関係するのは中ルートである。このルートの取水口は揚子江最大の支流、漢江の丹江口ダムの東岸、河南省南陽市淅川県九重鎮である。そこから河南省を通過して、黄河を地下トンネルでくぐり、京広鉄道の西側を北上して、はるばる北京市海淀区頤和園団城湖に達する1,432キロメートルの水路である(天津に向けた支線を含む。なお、丹江口市—県級市、は湖北省に属する)。この中ルートは『規畫』策定2年後の2014年12月12日に送水が開始された。

地図は、2020年11月27日付『人民日報』(北京版)の「1.2億多人用上『南北』」(1.2億人以上が「南(水)北(調)」を利用した)のものである。この水路は沿線の各都市に水道水を供給しているが、同記事によると、河南省内でも鄭州の中心市街地の水道の8割以上、さ



「南水北調」東・中ルート(『人民日報』2020年11月27日より)

らに、鶴壁、許昌、漯河、平頂山の主要市街地の水道は全て「南水北調」から水を引いている。

『規畫』の**第八章**「加強生態環境保護和資源節約利用」(生態環境保護と資源の節約利用の強化)は生態保護を推進すること(第1節)、環境保護を強化すること(第2節)、資源の節約と集約的利用を強化すること(第3節)など、今日、中原に限らず、全国的に益々重要となっているテーマを扱っている。

つづく**第九章**の標題は「建設和諧中原」(調和のとれた中原の建設)である。この「和諧」という言葉は2002年11月の中国共産党第16期全国代表大会で発足した胡錦濤体制のもとでは、重要な政治的意味を持っていた。2004年9月の第16期中央委員会第四次全体会議で「社会主義和諧社会」(略して単に「和諧社会」)の構築が党の發展目標として提起されたのである。さらに、その2年後の2006年10月に開催された第16期中央委員会第六次全体会議において「中共中央关于构建和谐社会若干重大问题的決定」(中国共産党中央委員会による和諧社会構築に関する若干の重大問題の決定)がなされ、和諧(社会)の意味が明確に示された(公表は10月18日)。

この「決定」によると、「和諧」とは、人と人との調



「社会主義核心価値観」(2018年9月)

和、人と社会の調和、さらには人と自然との調和といったように、多様な内容を含んでいる。それに合わせるように『規畫』におけるこの第九章では、中原文化遺産の保護強化から、医療・衛生分野の整備、年金等の社会保障の充実、さらには貧困地域の発展促進といった広範囲に及ぶ目標を定めている。

この「和諧」という言葉は、たとえば「社会主義核心価値観」12項目では、富强、民主、文明に続く4番目に位置づけられている。因みに、5番目以降は、自由、平等、公正、法治、愛国、敬業、誠信、友善である。写真は、2018年9月2日に河南省開封市の路上で撮ったものである。「核心価値観」をわかりやすく示すこうした標識・看板は、町中の至るところで見かけたほか、テレビでも啓蒙のための宣伝が繰り返し流されていた(新型コロナ前の情報)。

ところで、あらためて目を凝らして写真を見ると、「和諧」のところには英語で harmony と訳が付けられている。また、その簡潔な解説として、「多元包容」につづけて、日本人にも聖徳太子の十七条憲法の第1条冒頭の一文としてなじみ深い「以和為貴」(和を以て貴しと為す)が用いられている(典拠は『論語』学而第1章の12「礼之用和為貴」—礼の和を用て貴しと為す)。

『規畫』に戻ると、そこでは、中原における「和谐社会」の構築にとって重要なのは、教育事業を優先的に発展させることであるとして、義務教育、高等教育、職業教育の充実を目標に定めている(第2節「優先発展教育事業」)。とくに高等教育に関しては、河南省を代表する総合大学である鄭州大学と河南大学が国内一流大学になるよう支援するとされている。大学(教育機関)という特殊性はあるものの、『規畫』の

記述としては例外的に個別具体名を挙げて言及しているところに、中原地域において高等教育の向上が急務であるという危機感が現れていると言えそうである。

ここで、かつて友人より河南省には隠れた(?)超一流大学が存在する、と聞いたことを思い出した。今回、記憶を頼りに『百度百科』で調べてみると、どうやら「洛陽外国語学院」がそれに当たるようである。外国語教育を専門とする普通の大学のような名称だが、実はこれは通称であって、正式名称が「中国人民解放軍戦略支援部隊信息工程大学(情報工学大学)」であると知ると、納得が行く。要するに人民解放軍の近代化を進めるためにIT分野の高度人材を専門に育成するエリート校なのである。

『規畫』は、さらに、第4節「完善就職和社会保障体系」(就職と社会保障体系を整備する)で、雇用機会の十分な確保も「和谐社会」の構築にとって重要であるとしている。具体的な施策の1つは「実施創業計画」(創業計画を実施する)の推進であり、創業(起業)という言葉が出ているものの、さほど重視しているとは思えない。現在の習・李体制のもとでは、雇用の創出のためには創業(起業)の大衆化が不可欠であると盛んに唱えられているが、『規畫』策定当時は、まだ、そうした認識が低かったことを示している。この節の後半では、社会保障体制の一環として「社会養老保険制度」(社会年金制度)を都市と農村の住民全てをカバーするよう整備することが、中原経済区でも重点目標の1つになっていることがわかる。

第九章の最後は第5節「加大扶貧開發力度」(貧しい地域の開發能力を高める)である。周知のように貧困地域の解消は現在、内政面で最も重視されている課題の1つであるが、この『規畫』においては、わずかな数行が充てられているにすぎない。ただし、その短い記述の最後に“展開南水北調中線工程受水区与丹江口庫区及上遊地区対口經濟協作。”(南水北調中ルートプロジェクトで水の供給を受ける地域と、丹江口ダム区および[漢江]上流地域との対となった經濟連携を展開する)という一文を見つけた。水をあげる見返りに經濟的な支援を求める、とも意味がとれて、興味深い。

最近スマホを買ったら地図アプリを入れることが至極当たり前になっているようである。筆者も地理不案内な場所に行く時は、最寄り駅に着いたところで地図アプリを開き、目指す施設の名称を入力するとたちまち、地図上に現在地からの経路や所要時間が表示され、道に迷うということは無くなる。自宅から使用すると、利用できる交通機関や最寄り駅まで教えてくれる。さらには、地図上にいろいろな施設や飲食店も図示されるので、ついでに寄ろうという気になると、別のアプリでそれらの施設や飲食店についての詳しい情報もすぐ入手出来てしまう。恐ろしいくらいに便利になったものだと思う。

ただし、Wi-Fiが利用できない場所で、これらのアプリを使うとデータ通信利用料が発生するので、通信会社との契約が「〇〇放題」というような契約でない場合は、後で高額な料金を請求されてビックリすることも起こり得る。

中国から日本に観光でやって来る若者たちも、中国の地図アプリである「百度地図」や種々の情報検索アプリを使って、初めての観光地でも自由自在に動き回っているように見える。

筆者は2016年の滞在時に中国スマホを入手したものの定額利用のSIMであり、何よりも中文理解の問題があったので地図アプリの恩恵に浴することは出来なかった。したがって、日本の旅行ガイドに載っていない観光地では、現地で入手できる簡単な地図やパンフレットくらいしか持たず、さしたる事前情報も無く歩き回ることが常であった。

■「望海长廊」から「浴日亭」

思いがけなく、毛沢東像に出会った広場を抜けて、何処を目指すという当てもなく、渤海を左に見ながら公園内を歩いた。中国式の屋根がついた長い廊下状の展望施設からは海水浴場や帆船の船着き場を見下ろすことが出来た。「望海长廊」と表示があった。少し先の突出した崖の上に眺望が良さそうな小さな展望台があり、扁額は「浴日亭」とあった。東向きなので、日の出を見るためには絶好のポイントであろう（写真右上）。



突出した崖の上の「浴日亭」（2016年10月撮影）

此処までで渤海に面した公園の外周をほぼ歩いた感じになったので、出口の方向に向かった。

■「鸽子广场」と驚きの公共トイレ

出口に向かう途中に「鸽子広場」があった。この公園の由来は、附近の岩穴に鳩が巣を作っていたということらしく、此処には、たくさんの鳩が放し飼いにされていた。柵で囲まれた区画内で子どもたちがエサ遣りをしていた。「エサ付き」ということによるのか、柵内は有料で別料金であった。鳩は周囲にも沢山いるのに、わざわざお金を払い、衆人環視の中でエサ遣りをするのは、大人にはちょっとハードルが高そうだった。ついでに土産物店を覗いたが、食指が動くものは無かった。

公園出口を出る前にトイレに立ち寄ったが、これが驚きの代物だった。中に入った途端、まばゆいばかりの照明と広さにビックリ。天井にはシャンデリアとはいかないが、およそトイレらしくない照明器具が取り付けられ、壁は淡いブルーと白に統一、大きな鏡も付けられていた。豪華ホテル内なら、いざ知ら



ちょっと驚きのトイレ（2016年10月撮影）

ず、屋外遊戯施設内のトイレとしては見たことが無く、その清潔さに、写真を撮ってしまった（写真左）。

■歩き続けたら「碧螺塔」が見えて来たが・・・

公園出口から出て、せっかく出掛けて来たのだから、もう少し歩いてみよう、「鸽子窝公園出口」バス停を通り過ぎて「海浪路」を歩き出した。

左に海辺が見える、いかにも海岸通りという風情の道だが、周辺にあるのは大きな保養施設やレストランだけのようで、オフシーズンのせい、人通りが無く、誰ともすれ違うことが無かった。

2車線の舗装道路は登りになり、右側（山の手側）が鬱蒼たる森になった。大きな看板とバス停があり「东山宾馆」とあったが、石造りの塀の中は樹々が繁って、道からホテルは全く見えない。看板にはホテルの内部設備や関連施設の写真が掲示されていた。

道は再び下って、海沿いになり、進行方向の左側に遠く、奇妙な形の建築物が見えた。（下の写真参照）手持ちの地図を見ると「碧螺塔海上酒吧公園」と記されていて、その一帯は複合的なリゾート施設のようだった。近くに行ってみようと歩き続け、入り口に到達したのだが、入園チケットの販売窓口は閉まり、駐車場も閉鎖されていた。10月後半ともなれば海辺のリゾート施設はオフシーズンということのようであった。

太陽も傾き、歩き疲れて来たので、バス停を探すことにした。降りた15路の路線バスの経路からはとっくに外れてしまったようだった。どの路線バスに乗っても賑やかな通りに入るだろうとタカをくくっていたが、肝心のバス停が見当たらない。さらに考えると、歩き始めてからバス停は3つほど通過したが、バスに追い越された記憶はなく、対向してきたバスが1台だけだったような気がした。シーズン外のリゾ



湾を挟んで「碧螺塔」を望む（2016年10月撮影）

ートを巡るバスは便数が少ないのかと心細くなってきた。海岸道路から離れて高台に向かう道路に入り（方角は分からなくなったが）、人の気配がありそうな方向に歩き続けたら、バス待ち客が3人いるバス停に辿り着いた。やって来たのは朝と反対方向に走り「海濱汽车站」に向かう15路のバスだった。

■エッ、そうだったのか！「秦の行宮遺跡」

渤海に突き出た岬をやみくもに歩きまわった記憶とともに日本に戻ったのだったが、「わんりい」264号の原稿を書く時の参考資料で、以下の記述を見て愕然とした。「・・・発掘された横山遺跡群は面積約二万平方キロメートル、秦咸陽宮1号建築遺跡にも見られるような井戸や方磚（ほうせん）が出土している。『建陽』と刻字した陶鑑も見られる。（中略）・・・始皇帝が前215年巡行の際には、東に碣石を望んだ離宮跡であると見られている」。

方角を見失いながら歩きまわった道の脇に離宮遺跡の発掘現場があったようなのだ。勿論、手持ちだった地図を見ても何も出ていない。慌てて、「百度地図」を確認したら、ショック!! 「北戴河秦行宮遺跡博物館」が広大な跡地の一面に建設中であり、公開可能な箇所については、午前9時から午後4時まで無料開放だったようである。

此の地域と始皇帝の因縁の深さを改めて感じた次第であるが、もし、その存在が前もって分かっていたなら、或いは、当時、地図アプリが使えていたなら、これを見逃すことはなかった筈である。

しかし、また考える。旅は未知の場所に行つてハラハラ、ドキドキするから面白いのであり、ハッと息を呑む光景に出会ったり、思いがけない発見をすることこそが旅の醍醐味ではないだろうか？ 予め、十分過ぎる情報を与えられた後に、素晴らしい風景や事物を見ても、絵葉書や撮影画像を見たのと大差無く、大した感動は起こらないのでは、と思ってしまう。

コロナに対する緊急事態宣言や旅行自粛下で、代替的に“リモート旅行”が登場したが、どうも乗り気になれない。便利で安楽だと旅の楽しみも半分は失われてしまうと思えてくる。（続く）

（注）四角いレンガ。

■参考資料

鶴間和幸：「秦始皇帝長城伝説とその舞台」2013年、インターネット（2021.4.1閲覧）

中国の面白い神話物語・伝奇物語(10)－板橋三娘子 顧傑

皆様いかがお過ごしですか？ 最近は急に寒くなって来ていますので、健康にご注意ください。

さて、今まで紹介した唐伝奇小説では、古代中国人が思う「美しい女性」をモチーフにしている物語が多かったですが、唐伝奇の中の一分野・志怪小説（もののけについて描く小説＝怪奇小説）の主人公もまた、女性の方が多いと思われま

す。今日は、志怪小説の有名な一篇「板橋三娘子」を皆さんにご紹介しようと思います。

~~~~~

唐の時代、現在の河南省開封市一帯にある「汴州」の西側、「板橋店(地名)」という処に宿屋があ

った。店主は「三娘子」と呼ばれているが、三娘子の来歴は誰も知らない。三十代なのに夫はおらず、子供も親戚もない。小さな宿屋なのに、裕福な暮らしをしていた。疲れた人や貧しい人がいれば、三娘子は宿代を大

幅にまけて泊めてやるので、みんな三娘子の親切を讃えるのだった。

許州の趙季和という人が、友人に会うために、洛陽に行く途中に板橋店を通り、三娘子の宿屋に泊った。そのときすでに、6・7人の先客がいたので、大部屋の一隅に寝ることになった。三娘子のもてなしは素晴らしかった。夜になると酒が振舞われ、先客たちと楽しく飲んでいた。酒が飲めない趙季和も席に加わった。深夜になり、酔った先客たちは寝込み、三娘子も出ていった。

三娘子の部屋は、趙季和たちの大部屋の隣にな

っている。蠟燭を消すと、壁の隙間から光が漏れて来た。暫くすると、なぜか三娘子の部屋から音がするようになり、眠れなくなった趙季和は隙間から覗いてみた。すると、三娘子が灯のもと、箱の中から何やら取り出したのが見えた。それは小さな鋤と鍬だった。さらに木の牛と木の人形も取り出した。それらをかまどの前に置いて、ふっと水を吐きかけると、木の人形はきびきびと動きだし、木の牛を牽いてきて、鍬で床の前の地面を耕した。続いて箱の中から、一掴みの蕎麦の種を取り出して蒔いた。まもなく花が咲き、蕎麦が実った。刈り取ると7・8升あって、それを小さな臼で粉に挽い

た。三娘子は、木人形、木牛、鋤鍬を箱の中に収めると、蕎麦粉を練って火にかけて、焼餅6・7枚を作った。しばらくたつと、夜明けを告げる一番鶏が鳴いて、先客たちも出発の支度をはじめた。すると、三娘子は焼餅を取

り出して客たちの朝食にした。趙季和は夕べのことを思い出したので、先を急ぐからと朝食を摂らずに宿を出た。そっと戻って、扉の隙間から店の様子を覗いてみると、先ほどおいしそうに焼餅を食べていた先客たちは、地面に倒れ、家畜に変身した。三娘子は家畜に変身した先客たちを後ろの厩へ牽いてゆき、客たちの金も持ち物もすべて我が物とした。

一カ月後、洛陽からの帰途、趙季和は、あらかじめ蕎麦焼餅を作っておいた。大きさや形は以前、三娘子が作ったものと同じにし、板橋店では、三



現在でも中国(主に華北地方)の人々の朝食によく登場する焼餅

娘子の宿に泊まった。先客がいなかったの、三娘子は一層頑張っているような気がした。夜になると、三娘子は何かほしいものあるかと趙季和に訊いたので、趙季和は：

「明朝は早いので、腹持ちの良いものが頂きたい」と答えた。すると三娘子は：

「承知いたしました。ごゆっくりお休みくださいませ」と言って、部屋を出て行った。

夜が更けると、やはり隣の部屋から光が漏れ、カサゴソと音がして来た。

次の朝、三娘子は焼餅を持って来た。趙季和はお茶を所望し、用意のため三娘子が部屋から離れたことを確認して、前以て用意した焼餅を、三娘子のものと替え、問題のない焼餅を食べ始めた。

さらに、お茶を持って来た三娘子に：

「大変おいしい焼餅でした。私が作ったものなど比べものになりませんが、どうか召し上がって見てください」と言いながら、荷物の中から先ほど交換した、もともと三娘子が作った焼餅を三娘子に差し出した。

三娘子は何も疑わずそれを口にした途端、地面に倒れて驢馬に変わってしまった。趙季和はその驢馬に乗って、あちこち旅をしたが、道に迷うことは一度もなかった。

四年後、趙季和が華岳廟（中国五名山の華山付近）を訪れた時、一人の老人と出会った。老人は趙季和の驢馬を見ると、手を打って笑った：

「板橋三娘子よ！まさかお前がこんな姿になっていようとは！」次に、趙季和に話かけた。

「彼女は悪いことをしたが、貴方には騙されて酷い目に遭ったようだ。さすがに可哀そうだから、許してやろうじゃないか」

といいながら、驢馬の口を大きく引き裂くと、三娘子が飛び出して来た。

三娘子は老人に礼を言うと、すぐさまどこかに去って行った。以後、三娘子の噂も聞かない。

~~~~~

如何でしたか？「板橋店」は、唐の時代、海外の商人たちが多く集まる処だったといわれます。

そのため、この話は、崑崙奴などを扱う外国商人

たちから伝えられ、やがてローカライズされて中国で広まったのでしょう。古くから伝わる物語で、物語性や言葉遣いが非常に優れていると言われています。

そして内容もあり、単純な伝奇小説ではないと思います。

私の個人的な見解を申し上げますと：

「板橋三娘子」は、旅人を驢馬に変えて、その財物を取り上げていたが、最終的には自らも驢馬になってしまうという、自縄自縛、自業自得の物語です。

貿易が盛んだった唐代では、大きなお金を動かす商人・ビジネスマンが増えました。その人々にとって、誠実さは何よりの財産だったはずで、この「悪行には悪の報いがある」という物語が流行ったのは、ある意味、当時の商人たちにモラルの高さを求めるビジネス環境を表しているのではないかと考えます。



華山：中国五名山の一つ、西岳とも呼ばれる（新華網から）

読売新聞に書評が掲載されたから、反響も多いだろうと思い、この際、友人知人にも知らせようと、「本日の読売新聞に拙著の書評が出ました」というメールを出したところ、多くの友人が「すごいですね。図書館で見えます」とか、「これで全国の図書館が購入してくれますよ」と言う人もいた。

私が友人知人に、神保町の中国専門の書店でも拙著を置いてくれていると発信したこともあってか、あるご婦人が東方書店に入るなり、「大類さんの本ありますか」と尋ねたと言う。

神保町は私がいる事務所にも近く、その日たまたま東方書店に入ったところ、売り場主任の T さんが出てきて、さっそく、このこと伝えてくれた。

T さんとは旧知の間柄だから、私の名前もよく知っているから良かったものの、私を知らない若い店員さんだったら、「大類さんって？ 書名は何と言いますか」とそのご婦人に問い返したかもしれない。おかしいような嬉しいような、面白い話だ。

さて、前にも記したが、エスペラントの語学力はまるでなく、「永遠の初心者」である私など自分をエスペランティストだと名乗る度胸はない。それもあって、親しいベテランのエスペランティストの友人に、「Y さんや K さんのような拔群の語学力がある人は、エスペラントもろくにできない大類がこんな本を出して、と冷ややかに見ているでしょうね」とメールを出したらその友人は、「確かにあの二人は語学力はあり、エスペラント界ではそれなりの人ですが、本を出して社会的に発信している大類さんの方が存在は大きいですよ」という返事をくれた。

悪い気はしなかったが、改めて近頃思うのは社会に向かって発信するというか、発言することの意味の大きさである。小さいエスペラント界でただ語学を学習していても、社会においてはほとんど意味をなさないと言うと極論だが、どれだけ意味があるのか疑問だ。

エスペラントに理解がある言語学者の田中克彦さ

んはかつて、「フランス語やドイツ語を学ぼうとするのは、その背後にあるフランスやドイツの文学や思想が魅力的であるからだろう。その点、エスペラントはその背後にある思想や文化が乏しい。であるならエスペランティストと名乗る人に魅力がなかったら、誰がエスペラントを学ぼうと思うだろう？」と言ったことがある。真に至言である。

私だって、世界の政治的な課題や疑問などもなく、また問題意識もないような人が、ただひたすらエスペラントを勉強し、「世界共通語であるエスペラントを学べば平和になりますよ」なんて言っていたら、なんというおめでたい人だ、この程度のレベルの人が熱中するなんてエスペラント界も大したことはないな、とってしまうだろう。

私は威張って言うことではないが、エスペラントを懸命に学習した経験は残念ながら乏しいが、エスペラント界の数少ない仲間と友人関係が継続していたのは、彼らが魅力的な人間であり、大いに刺激し合える関係が継続できたお陰なのである。

今なお世界の各地で戦争が止まらない中、行動で、あるいは文章で、戦争を止めろ！ 平和を！ と言う声を挙げるエスペランティストが多く出てくると社会は当然、「エスペランティストってすごいね」と見直してくれ、「よし自分もエスペラントを学習してみるか」となるはずである。そこまでいかなくとも、「エスペラントってヨーロッパの国の一つでしょ」と有名書店の店員が言うような状況はなくなっていくだろう。これはその店員が無知なのではなく、我々エスペラントの仲間がそのような状況を生み出してきたのだと自分自身に問いかけ、社会に対して自分は何ができるかと問い続けることが大切だと思う。拙著がその一つの刺激剤になれば嬉しい。そういう意味でも拙著を上梓できたことは良かったし、この契機を与えてくれた田井光枝さんには本当に感謝の言葉しかない。改めて、田井さんにお礼を申し上げます。ありがとうございました。

前回(9月号)からの続きです。1992年に「小学館」から発行された、北京・商務印書館との共同編集による「中日辞典」には、**日:中**という記号が付いた語が全部で292個あります。この記号は、漢字で対応する日本語がある場合、その意味・用法の違いを補充説明するというものです。中国語学習者にとって役に立ちそうなものをピックアップしてみます。

【差別 chābié】 へだたり. 格差. ひらき. 区別.
niánlíngchābié / 年齢差別/年齢の差。

“差別”は主に「違い・区別・格差」の意味で使われ、他のものより低く扱う場合の「差別:さべつ」は“看不起”や“歧视”を使うことが多い。不要看不起妇女/女性を差別してはいけない。种族歧视/人種差別。

中国語文の中に“差別”という文字が出てきても、アー、これは「違い・差」という意味なんだと軽くとらえるようにしましょう。

【場所 chāngsuǒ】 場所. ところ. 公共场所
huó dòng chāngsuǒ / 公共の場所. 活动场所/活動する場所。

“場所”は日本語から入った言葉で、主に多くの人が集まり活動する場所をさすが、時には人が活動する場所以外の所をも示す。森林是猛兽出没的场所/森林は猛獣が出没する所だ。また、“娱乐场所”(娛樂場)、“运动场所”(運動場)のように施設をさすこともある。

現代中国語には日本語由来の言葉が大変多いようで、統計によれば、社会・人文科学方面の名詞・用語においては、なんと、その70%が日本から輸入したものだそうです。“中华人民共和国”の“人民”と“共和国”もそうだとか。詳細を知りたい方は、「日本語由来の中国語」でネット検索してみてください。

【成人 chéng rén】 1. おとなになる 2. 成人

“成人”は「成人になる」以外に「りっぱな大人になる」「一人前になる」の意味を含むことがある。
zhè ge hái zǐ bù chéng rén / 这个孩子不成人/この子はろくな人間にならない。

おとなのあなたが中国人の同僚に“你真没有成人”と言われたら、「君は本当にこどもだなあ」なのか、「君は本当に使えないなあ」のどちらなのでしょう。

【出产 chūchǎn】 1. 産出する. 生産する. 江
xī jǐng dé zhèn chūchǎn jīng měi de cí qì / 西景德镇出产精美的瓷器/江西省の景德镇は精巧で美しい磁器を産出する。 2. 産物. 物産. 四川盆地出产丰富/四川盆地は物産が豊富だ。

日本語の「出産(する):しゅっさん(する)」は“生(孩子)”“生产”などという。

【出身 chūshēn】 出身. 出. 农民出身的干部/
tā bù xiàng ge gōng rén chūshēn / 农民出身的幹部. 他不像个工人出身/彼は労働者の出には見えない。

中国語の“出身”は自分の過去の経歴や生まれた家の階級区分をさすことが多い。日本語の「出身地:しゅっしんち」は“出生地”、“出身校:しゅっしんこう”は“毕业学校”のようにいう。

「出身校」のことを「母校:ぼこう」とも言いますが、中国語でも同様、“母校”という語があります。

【出世 chūshì】 1. 生れ出る. 出生する 2. 発
zài yí ge fēng yǔ jiāo jiā de yè wǎn wǎn chū shì le / 在一个风雨交加的夜晚,他出世了/あるあらしの夜、彼はこの世に生を受けた。
jiù zhì dù yào miè wáng xīn zhì dù yào chū shì le / 旧制度要灭亡,新制度要出世了/古い制度が滅び、新しい制度が生まれようとしている。

“出世”は世に出ることであり、対象物は人でも物でもよい。日本語の「出世:しゅっせ」は“出息”“发迹”などに相当する。他准有出息/彼はきつと出世するに違いない。他发迹很快/彼は出世が早い。

【辞退 cì tuì】 解雇する. 暇を出す. 他被辞退了

/彼は解雇された。

日本語の「辞退：じたい」は“^{xièjué}谢絶”“^{cíxiè}辞谢”に相当する。有人要聘请他作钢琴教师，他辞谢了/彼をピアノの先生に迎えたいという人がいたが、彼は辞退した。

【打算 dǎsuàn】 1. …するつもりだ。考える。企てる 2. 意图。考え。你打算到哪儿去旅行？/あなたはどこへ旅行に行くつもりですか。各有各的打算/それぞれ自分の思惑がある。作最坏的打算/最悪の場合の準備をする。

中国語の“打算”は「…をもくろむ」「打算的だ」のように悪い意味でも用いることができる。“为(人)打算”の形で「…の利益のために考える」という意味でつかわれるが、“为”の後ろに“个人”や“自己”を伴うと、「自分のために打算する」「打算的である」の意味で使うことができる。他为别人打算/彼は他人の利益を考える。他为个人打算/彼は打算的だ。

日本語の「打算：ださん」は、「打算が働く」「打算的だ」など自分の損得を考えて行動するという、もっぱら悪い意味で使うことが多いですね。

【道理 daolǐ】 1. わけ。理由。你要是把道理给他讲清楚，他会高兴去做的/君がわけをはっきりと話せば、彼は喜んでそれをやりますよ。2. 道理。筋道。他说得没道理/彼が言ったことは道理に合っていない。

“道理”は日本語の「道理：どうり」と同様、かたいニュアンスもあるが、“有道理”（なるほどそのとおり）と相づちを打つような場合にも用いる。

日本語でも「道理で：どうりで」（なるほどそれで…なんだ）と納得する場合にも用いますね。

【的确 dīquè】 確かだ。疑いない。我还记得清清楚楚，那时候他的确是这样说的/あのとき彼が確かにそう言ったのを私はまだはっきり覚えている。

“的确”は「確かに…だ」のように連用修飾語として使われることが多い。日本語の「的确；てきかく、てっかく」は“确切”“恰当”などと訳す場合が多い。确切的解释/的確な解釈。比喻不恰当/

たとえが的確でない。

【发展 fāzhǎn】 1. 发展(する)。发展させる。2. (メンバーなどを)増やす。受け入れる。这一次发展了五个会员/今回は5名の新会員を受け入れた。

中国語の“发展”は小から大へ、簡単から複雑へ、低いレベルから高いレベルへ「発展する：はってんする」ことであるが、悪い状態へ変化する場合にも用いることができる。他从小偷小摸发展到犯罪/彼は小さなちょろまかしから犯罪を犯すようになった。

【否决 fǒujué】 否决(する)。拒否(する)。提案被大会否决了/議案は大会で否决された。

“否决”は日本語の「否决する：ひけつする」と同様の意味で用いることができるが、反対語の「可決する」は中国語では“通过”を用いる。这个提案恐怕通不过/この提案はおそらく可決されないだろう。

反対語についての補充説明までしてくれるのには驚きです。

今回はここまでにしておきます。「油断一秒、怪我一生」——この言葉は日中同形語にまつわる笑い話として知られています。以下、『油断一秒、「怪我」一生？ 早文舎中国語教室』からの引用です。

中国の訪日代表团が日本の工場を見学し、工場の壁に掲げられているこの標語を見て、日本の工場では従業員に対して非常に厳しい指示を出していると大変驚いたとのこと。

「油断」という言葉は中国人には「油を断つ」、即ち「油を止める」との意味にしかとれません。中国語で「油を断つ」は「断油」、正しくは「停止供油」ですが、「油断」であっても「油を断つ」以外の意味を想像することはありません。「怪我」は、「怪」が動詞、「我」が目的語で、「私のことを責める」という意味になります。したがって、「油断一秒・怪我一生」は中国人にとっては「もし私が油の供給を一秒間止めたら、私を一生責めてもよい」となります。

満州走馬灯 (3)

和田 宏

井口先生が渡った旧満州泰阜村は、現在の黒竜江省佳木斯市樺南県大八浪郷であるが、当時作られた満洲泰阜村建設の歌を紹介する。

『満洲泰阜村建設の歌』

暁天はるか 輝けば
希望は燃えて 緑なす
見よ 大陸の新原野
拓く吾等に 光あり
おお満洲 泰阜村

ついでに満洲国国歌も紹介しよう。3 曲のうち 1933 年 2 月 24 日に制定された 2 番目のもの。

作詞：鄭孝胥(国務総理)、作曲：「満洲国文教部選」とされたが、高津敏・村岡楽童・園山民平 3 人の合作である。

『満洲国国歌』

天地内有了新満洲 新満洲便是新天地
頂天立地無苦無憂 造成我國家
只有親愛並無怨仇 人民三千萬人民三千萬
縱加十倍也得自由 重仁義尚禮讓
使我身修 家已齊國已治 此外何求
近之則與世界同化 遠之則與天地同流
(意識)

天下に新満洲誕生 新満洲は新天地
苦しみも憂いも無い 私たちの国
愛に溢れ 恨みつらみの無い民三千万
気持ちも朗らかに 礼節仁義の厚い国
身を治め家を整え国を治めるその先に
世界にはばたき 天地にとどろく満洲国

当時の疲弊した農村にあつて、耕す土地の無かった人達が、『満洲に行けば 10 町歩の大地主になれる。』という謳い文句を信じたくるのは無理もない。満洲は、まさに“希望の大地”と映ったのであろう。しかし、現実は逆だったのである。荒れ地を開墾し、中国人らと衝突を起し、終戦直後はソ連兵が押し寄せて来たため、命からがらの逃避

行。松花江を泳いで渡って逃げる際、やっと対岸に辿り着いて岸の縁を掴んだ幼い我が子の手を払いのけて、流れに捨てた母親の姿を井口先生は目撃した。母親は自分の生命の方が愛しい我が子より先だったのである。幼児は逃げる際の足手纏いになるからだ。井口先生の短歌には真実が詠み込まれている。

泳ぎ着き草につかまる子を母は
再び放ち流れとなしぬ
ハルピンに坊主頭の難民の 吾が叫びみし
「擦擦皮鞋 (ツアーツアーピーシエ)」
朝には「飯々完了 (メシメシワンラ)」
夕べには 「ドルチェン (多儿钱) 売買
(マイマイ)」 挨拶もしぬ
満人の畑の作物盗り食 (は) みて
生き来しいのち今に続けり



6 年 3 組同窓会 2012 年前列中央が井口萬里子先生(87)
後ろのネクタイの男が和田(66)

井口先生にとっては、満洲は幻の王道楽土だったのではないだろうか？ 1936 年、“2・26 事件”が起き、厭な空気が世の中を覆い出した頃、日本放送協会は、退廃的でなく健全で明朗な歌を国民に広めるため国民歌謡の制作・放送を始めた。その一つに『椰子の実』があった。この歌は、島崎藤村が民俗学者・柳田国男の体験を聞いて詩にしたもので、作曲は山田耕筰。井口先生は、この『椰子の実』の歌が好きだった。その理由は歌詞にあると推測する。

名も知らぬ遠き島より
流れ寄る椰子の実一つ
故郷の岸を離れて
汝はそも波に幾月
もとの木は生いや茂れる
枝はなお影をやなせる
われもまた渚を枕
ひとり身の浮寝の旅ぞ
実をとりて胸にあつれば
新たなり流離の憂い
海の日沈むを見れば
激り落つ異郷の涙
思いやる八重の汐汐
いずれの日にか国に帰らん

この歌詞こそ、井口先生の波乱に富んだ、そして時代に振り回された人生そのものを表現している様に私には思われる。実は今、この曲が毎日午後5時、私の住む川崎市多摩区の町に防災行政無線屋外受信機のスピーカーから流れるのである。



満州国国旗

<盧溝橋事件⇒支那事変>

1937年7月7日、北京郊外で盧溝橋事件が発生、支那事変と呼ばれる。日本が中国への全面侵略戦争に突入した日である。

七夕やラッキーセブンと浮かるるまじ
盧溝橋に侵略せし日 (和田作)

緊迫する中国との和平工作の特使として、宮崎滔天の長男・宮崎龍介が近衛文麿首相の依頼で密書を持って上海へ派遣されるが、7月24日神戸港

で上海に向かう「長崎丸」に乗り込んだ所で拘束されて東京へ送還されている。龍介・白蓮の長男の香織は、私と同じ早稲田大学政経学部の学生だったが、学徒出陣で1944年12月、陸軍に招集され鹿児島県串木野に赴いた。1945年8月15日終戦となり、外地に行っていなかった息子が無事に帰って来るものと白蓮はホッと胸を撫で下ろしていた。9月6日に1通の電報が届けられた。そこには、『一ヒミヤザキカオリバクゲキニテセンシス』と書かれていた。つまり、香織は、終戦のわずか4日前の1945年8月11日、米軍機から落とされた爆弾で亡くなっていた。電報が届けられた9月6日は、奇しくも妹・菫菱さんの20歳の誕生日でもあった。

白蓮は1946年5月NHKの放送で戦争で香織を亡くした悲しみと平和の大切さを話し、これがきっかけで白蓮は戦争で子どもを亡くした母親たちに呼びかけて「悲母の会」を創立し、反戦平和運動を始めることにもなった。

龍介・白蓮夫妻は、1956年4月、孫文誕生九十年の祝典に新中国から国賓として招待され、毛沢東・周恩来・朱徳・劉少奇らと面会し、廖承志が通訳を務めた。毛沢東の故郷湖南省長沙や上海の孫文の旧宅などを訪問している。毛沢東と握手を交わした白蓮は

人民に頼まれているはこの人か
毛沢東の手の暖かき

と詠んでいる。

第2次世界大戦が終了し東西冷戦が緩和し、世界中が互いに理解を深めて来たが、終戦から76年経った今日でも、沢山の課題は一向に解決されていない。その上、2020年からはコロナ禍も加わって国際関係も人間同士の付き合いも冷えて来ているようにさえ見える。人間の知識や感性も、その時代や世論の影響を受けざるを得ない。私は、歴史も人も古今東西連動していると言いたい。歴史に学べと言うし、歴史は繰り返されるとも言う。この道はいつか来た道・・・とならないように願うばかりである。

海女はむせび泣きながら、

「漁兄、私はもと天宮で王母様に仕える侍女でした。ある宴会でうっかり手を滑らせて、玉杯を壊し、王母様を怒らせて罪女となりました。王母様は私をどぶ貝に変身させ、竜王に命じて冷宮に監禁させました。私は冷宮で悶え苦しんでいましたが、ある日こっそりと冷宮を抜け出して外へ出ました。あたりを見回していると、私はうっかり漁網に引っ掛かり、岸に引き上げられました。幸いあなたが再度私を海に投げ返してくださり、私は島のそばに隠れることができました。その時から私はもう一度あなたにお会いしたいと思っていました。ちょうどそのころ、貴方の船が荒波で転覆したのを見て、私は貴方を岸に押し上げました。その後、竜王は私が下界の方と結婚したのを見て、怒りに燃えていました。貴方は空の色が変わったのに気づきませんでしたか？ 竜王が兵を出して私を捕らえに来るのです！」

漁兄はしっかりと妻の手を握って、

「王母でも竜王でも構うものか、私は死んでも君を放さない！」

「貴方が私を放さなければ貴方やこのあたりの漁民は皆殺されて、大きな災いになります」

「じゃ、人を苦しめる悪者を懲らしめる方法はないのか？」

「あることはあります。でもとっても難しい！」

漁兄は力強く言いました。

「君が災いを免れるなら、私はどんな困難も恐れな

い。剣の山、火の海、なんでも来い！」
「唯一の方法は乾元山の金光洞へ行き、太乙真人に面会を申し入れて、海を鎮める宝物を手に入れ、竜王の憤りを鎮めることです。そうすれば私たち夫婦は円満に暮らせるでしょう」

と言いながら、首から真珠を取り外し、漁兄に渡して、
「もし鎮海の宝物が手に入ったら、この真珠を海に投げ入れてください。そうすれば、私はすぐ家に帰ることができます」

彼女が言い終わると雷鳴がとどろき、漁兄は気を失ってしまいました。しばらくして目を開けると、水

は引き、海女の姿も見えません。部屋の中はどこもぬかるんでいます。漁兄は妻を案じながら、そそくさと旅支度を整えて家を出、頼みの太乙真人を尋ねて乾元山に向かいました。彼は昼夜を分かたず歩き続け、艱難辛苦を嘗め尽くし、険しい道乗り越えて進みました。喉が渴けば川の水をすくって飲み、空腹になれば木の葉を食べて飢えをしのぎました。川の急流を越えようとした時には、危うく流れの渦に引き込まれそうになりましたが、仙人に会い宝物を手に入れて、妻を救う決心は変わりません。目の前の木の葉は緑色から黄色に変わって行き、半年の時間が流れました。漁兄はなお歩きます。

その日の昼ごろ、高い山に行く手を遮られましたが、彼はものともせず登り始めました。と、突然足を滑らせ、彼はゴロゴロと斜面を転がり、崖の下へ落ちてしまいました。痛さをこらえて起き上がり、また登り始めると近くで人の声がします。

「お兄さん、貴方はどこへ行くんですか」

漁兄が振り返ってみると、12・3の男の子が目の前に立っていました。彼は男の子に、

「私は漁兄と言います。実をいうと乾元山の金光洞に太乙真人という方を尋ね、救いを求めようとやって来たのです」

と、言いました。すると男の子は、

「私は金光洞の金霞童子です。師匠の言いつけであなたをお迎えに来ました」

と言って右手を振りました。すると、五色の雲が目の前に現れました。金霞童子は漁兄に目をつぶらせ、二人は雲に乗って空中を飛びました。漁兄は風の音を聞きながら空を飛び、瞬く間に仙境に着きました。目を開けてみるとそれは素晴らしいところでした。目の前には万丈の山が聳え、山上は紫色の雲に閉ざされています。青々とした松、柏の老木の深い緑。山の中腹に大きい石の洞窟が緑の松の間に見え隠れしていました。洞窟の両側には四本の大きな石の柱が立って、石柱には色とりどりの美しい霞がまといついています。金霞童子は漁兄を洞に導いて太乙真人に拝謁させ、漁兄は姿勢を正して洞内に入りました。

太乙真人は座布団に座って目を閉じていましたが、漁兄が中へ入ると目を開いて歓迎し、

「善良な若者よ、貴方たちのことを私はよくわかっている。死に損ないの竜王が騒動を起こして、百姓をいじめているのだ。当然罰しなければならぬ！」

彼は宝物の袋から精巧にできた金の獅子、鉄の虎、玉の山を取り出し、漁兄に手渡ししながら言いました。

「この三つの宝を持ち帰りなさい。竜王も騒ぎを起こすことができなくなるだろう」

漁兄は太乙真人にいとまごいし、金霞童子に見送られて早々に家に帰り着きました。家に帰ると彼は鎮海の宝物を取り出し、詳しく観察しました。また、ポケットの中を確認めると、確かに海女に渡された真珠が出てきました。彼はそそくさと食事を終え、宝物を手に海辺に向かい舟をこぎ出しました。

漁兄は真珠を取り出して静かに海に落とし、自分は舳先に座って愛する妻の帰りを待ちました。

一方海女は竜王の兵隊に捕まり、冷宮に引き戻されてから、ひたすら漁兄のことを案じていました。この日、もう漁兄が帰って来る頃だと海女が待ち望んでいると、突然遠くの方に小さな明かりが見えました。目を凝らして見ると確かに真珠です。喜びを抑えて、成功を念じながら真珠を手にする、全身に力がみなぎりしました。看守役の二匹のエビの兵隊はうとうとと居眠りをしています。彼女は“脱皮の計”を思いつき、虫に変身して冷宮を抜け出し、海面に浮かび出ました。すると遠くの船の舳先に座っている漁兄が見えました。海女は大喜びで水に潜り、また美しい女性に戻って、漁兄にかけ寄りしました。漁兄も手を伸ばして海女を船に引き寄せました。

長く別れていた夫婦は再会を果たし、言い知れぬ感激に浸りました。海女は漁兄に、

「追手が迫って来ます。ここにはいられません。早く逃げましょう」

と、言いました。二人は急ぎ対岸に向けて船を漕ぎ出し、そろって家路につきました。しかし、海女が言った通り、夫婦がやっとオンドルに落ち着いたかと思うと、急に雲行きが怪しくなり大風が吹き始めました。黒雲が湧き出し、耳をつんざく雷、土砂降りの大雨となりました。竜王が兵を出して追ってきたのです。でも海女は恐れませんでした。彼女は漁兄を家の中にかくまい、自分は鎮海の宝物を手に、海辺に向



白玉山の白玉山塔、1909年日本軍が建立（新浪網より）

かいました。あたりを埋め尽くす魚やエビ、カニの大群が、大波に乗って岸に押し寄せます。彼女は慌てず、鎮海の宝物の中から玉山を取り出して海に浸しました。すると閃光が走り、一瞬の間に大海の北岸に高い山が聳え立って風雨を遮りました。渦巻く波も治まりました。この山が現在の旅順港白玉山です。

それから彼女はまた鎮海の鉄の虎を取り出し、右側の海に投げ入れました。青い光が走ったかと思うと、虎は空中で尾を伸ばし、猛烈な勢いで海面を横切りました。魚や亀、エビ、カニの兵隊はその大半が死傷し、鉄の虎は高い山になりました。これが現在の旅順西南の老鉄山で、港の前に伸びたところを老虎尾山と言います。

竜王は兵隊たちの多くが死傷したことに腹を立て、顔色を変えて、彼らに村を水浸しにせよと命じました。瞬く間に小山のような波が漁村を襲いましたが、海女はこれを見るとすぐ金の獅子を取り出しました。金の光が閃くと同時に、金の獅子は咆哮し、巨体を伸ばして海中に落ち、宝虎とつながって屏風のような障壁になりました。後に獅子も大きな山になり、現在の旅順港東側の黄金山となりました。獅子の口は今の港湾につながっています。竜王は何とも手の下しようがなく、すごすごと兵隊どもを率いて竜宮に帰りました。漁兄と海女は、村の人々ともども楽しい日々を送ったといいます。それから後、人々はこの港口を獅子口というようになりました。

明朝時代、かつて馬雲、葉旺など著名な将軍が、命を奉じて遼東へ赴いた際、彼らは山東から海を渡って獅子口に上陸したと言います。移動の旅は順調に行われたので、獅子口の名は旅順口と改められたそうです。(完)

読者からの投稿です。

~~~~~

### ◎ビャンビャン麺を食べに

わんりい 10月号のみんなの広場で紹介された、日中友好会館内のレストラン“馥（ふく）”のビャンビャン麺を食べに行った。

洗面器くらいの大きな器の中身は、幅広麺と、もやしと、ねぎと、肉。熱いうちによくかき混ぜてとのこと。混ぜると汁が真っ赤に。汁を一口飲んでみた。さほど辛くない。次に麺、手打ちなので、3cm以上の幅広のところもあるし、1cmくらいしかないところもある。そして、物凄く長い。ランチタイムを過ぎていたので、客がほとんどいないことを確かめて、どのくらい長いのか、箸でつまんで立ち上がったが、1mくらいのところで切れてしまった。辛味もほどよく、麺はもちもち感があり、かなりのボリュームだったが、美味しく完食。麺は半分の量でもよかったかも…。さすがにその日の夕食はパス。

コロナ禍、引きこもりがちの日々。1時間かけて、電車を乗り換え、ビャンビャン麺を食べに行こうと思ったのは、以前、わんりいに、どなたかが、ビャンビャン麺のことを書いていて、ビャンという非常に画数の多い漢字の写真が載っていたのが記憶にあったからだ。

ウィキペディアには、ビャンという字は58画で筆順（書き順）も載っている。この漢字を覚えて、自慢してやろうと何回も練習したが、数日たつと忘れてしまっていた。

ビャンの語源は、いろいろあるようだが、店の人の話では、麺を両手で打つ際に、ビャンビャンと音がするからというのも一説。

“馥”のビャンビャン麺は期間限定だから、もう一度食べに行こうと友人に誘われて、再度出かけて行った。前回よりも汁が少なく、辛味が強いようだ。日によって多少味に違いがあるのかもしれない。その日は、ロージャーモーという中華ハンバーガーを食べた。これも美味しかった。この麺、

展覧会の期間中だけという触れ込みだったが、好評のせいか、展覧会閉会後も食べられるようになったそうだ。 (紅葉)

~~~~~

◎‘わんりい’から、新年会のお知らせ

2020年の2月2日に‘わんりい’恒例の新年会が開催された後、世の中のコロナ情勢が深刻になり、今年(2021年)は新年会が開けませんでした。来年(2022年)の新年会はどうなるのでしょうか？

今の処、新規感染者数はひところよりずいぶん減少し、各種規制も徐々に解除されていますが、未だすっかり安心するわけにもいきません。

‘わんりい’では、一応2022年1月30日、例年の会場(麻生市民館・調理室)を確保しました。状況が許せば、是非久し振りに皆さまとお目にかかりたいと思います。

希望はしていても、世の中の情勢を見、規制の有無を確かめてから決定と言うことになりますので、ご案内は12月号の誌上までお待ちください。

これから寒さが厳しくなります。皆さま、健康に留意され、お風邪など召しませんようにお過ごしください。‘わんりい’としても、世の中の情勢が沈静化し、会食に条件など付かなくなり、自由に新年会なども開催できるようになることを祈りながら、楽しみに待つことにいたします。

◇満柏画伯の漢訳俳句◇

秋と言えば柿。
言わずと知れた正岡子規の句です。

柿くへば鐘が鳴るなり法隆寺

hóng shì dàn lái wǎn zhōng míng

红柿啖来晚钟鸣，

shēng shēng rù ěr fǎ lóng sì

声声入耳法隆寺

【わんりいの催し】

皆様のご参加を歓迎します

♪ ボイス・トレで日本語の歌を歌おう！

身体力を抜いて気持ちよく発声しよう！
声は健康のバロメーター！！

動きやすい服装でご参加ください。

- 会場：まちだ中央公民館 美術工芸室
- 日時：11月30日(火) 10:00~11:30
12月14日(火) 10:00~11:30
- 講師：Emme [エメ] (歌手)
- 会費：1,500円 (講師謝礼・会場費)
- 定員：15名 (原則として)
- 申込：☎042-735-7187 (鈴木)

~~~~~

### ❀❀ 中国語で読む 漢詩の会 ❀❀

漢詩で磨く中国語の発音！ 中国語のリズムで読んで漢詩のすばらしさを味わおう！

- 会場：まちだ中央公民館 視聴覚室
- 日時：11月7日(日) 10:00~11:30  
12月12日(日) 10:00~11:30
- 講師：植田渥雄先生  
桜美林大学名誉教授
- 会費：1,500円 (会場費・講師謝礼)
- 定員：20名 (原則として)
- 申込：☎090-1425-0472 (寺西)

Email:ukiuki65jp.jp@yahoo.co.jp

(有為楠)

~~~~~

∞∞わんりいの参加中止∞∞

★11月27日(土) まちカフェ

都合により、わんりいの参加は取り止めになります。まちカフェは予定通り開催されます。

■11月・12月定例会 代表宅

▼11月12日(金)13:30~

▼12月9日(木)13:30~

■‘わんりい’ 発送 三輪センター

▼12月号は12月2日(木) 10:00~

▼2022年1月号は

12月28日(火) 10:00~

☆☆編集後記☆☆

最近友人との雑談で、テレビ創成期に放映された、アメリカのホームコメディ、「パパは何でも知っている」と言うドラマのことが話題になりました。

シリーズで、毎週放映されましたが、お話しは他愛のないもので、なにも覚えていません。ただ、そこに映し出されるアメリカ人の生活が印象的でした。週一回、スーパーマーケットで大きなカートいっぱい品物を買って、紙袋をバケツのように口までいっぱいにして帰るのです。

当時日本にはスーパーマーケットはまだなくて、毎日の買い物は、買い物籠をさげて近くの商店街へ行っていました。その後、日本にもスーパーができ、まとめ買いもするようになりましたが、紙袋は登場せず、代わりにビニール袋が使われるようになりました。それが今、マイクロプラスチック発生原因の一つとして指摘されているのは複雑な気持ちです。

~~~~~

‘わんりい’は、新入会をいつでも歓迎します

年会費：1800円、入会金なし

郵便局振替口座：00180-5-134011 わんりい

10月以降の入会は、当年度会費1000円。

■問合せ：044-986-4195 (寺西)

### ‘わんりい’ 268号の主な目次

|                         |    |
|-------------------------|----|
| 寺子屋・四字成語(47) 鵬程万里       | 2  |
| 「日译诗词」(17) 李清照の詞『如夢令』   | 3  |
| 「漢詩の会」だより(52) 崔護        | 4  |
| 「中原」雑感(16) 『中原経済区計画を読む』 | 6  |
| 中国の面白い神話伝奇物語 (10)       | 8  |
| 秦皇島をご存知ですか (9)          | 10 |
| 『エスペラント』出版後日譚           | 12 |
| 中日辞典 意外な発見 (8)          | 13 |
| 満州走馬灯 (3)               | 15 |
| 旅順港のお話 (2)              | 17 |
| みんなの広場                  | 19 |
| ‘わんりい’の催し・お知らせ          | 20 |